



令和5年度 全国学力・学習状況調査結果

調査結果と今後の対応

今年4月に、小学校6年生と中学校3年生を対象に全国学力・学習状況調査が実施されました。その調査結果が報告されましたので、本校の傾向と課題、今後の学力向上への対応等についてお知らせします。

1 調査の目的

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語 ・数学 ・英語

[①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活に不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等。]

(2) 質問紙調査（生徒質問紙）

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

3 本校の傾向と分析

学力調査結果から読み取れる本校の傾向及び分析は、次の通りです。なお、本学力調査によって分かるものは学力の一部であり、本結果が本校生徒の学力の実態全てを示すものではありませんので、ご注意ください。

(1) 国語に関して

- 平均正答数を見ると、全国平均及び県平均を上回っています。
- 「知識及び技能」では、全ての事項において全国平均及び県平均を上回っています。
- 「思考力、判断力、表現力等」におけるA「話すこと・聞くこと」に関する問題は、全国平均及び県平均を上回っています。B「書くこと」C「読むこと」に関する問題は、全国平均及び県平均を大きく上回っています。
- 選択式の問題で一問だけ、全国平均及び県平均をやや下回りました。短答式の問題・記述形式の問題は全て、全国平均及び県平均を上回っています。
- 「おし量る」の下線部の漢字（推）を書く問題は、全国平均及び県平均を上回ったものの、正答率は44.7%と最も低かったです。

学力調査の結果から、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」共に、全国・県平均を上回る力が身に付いていることが分かります。質問紙からは、全ての記述問題について最後まで解答をしようと粘り強く努力した生徒が多いことが分かり、実際に全国・県と比べて無解答率が低かったです。一方、効果的な話し方を工夫したり、必要な情報を資料から引用して書いたりすることについて、「できている」と感じている生徒が全国・県と比べて少ない、という課題が見られました。そのため、自分の考えを伝えるために工夫して話したり書いたりする言語活動をますます充実させ、自信をつけさせていきたいと考えています。

(2) 数学に関して

- 平均正答数を見ると、全国平均及び県平均を上回っています。
- 「数と式」「関数」「図形」に関する問題は全国平均及び県平均を大きく上回っています。「データの活用」に関する問題は全国平均及び県平均をやや下回っています。
- 記述式の問題では、正答率は全国平均及び県平均より高く、「数と式」に関する一問を除いて無解答率は全国平均及び県平均より低いです。データの分布の傾向や判断の理由について説明文を書こうとする意欲が窺えます。
- 無解答率が全国平均及び県平均より高い問題は、結論が成り立つための前提を説明するなど、物事を逆算して考えるような問題である傾向が見られます。
- 平均正答数を見ると、全国平均及び県平均を大きく上回っています。

質問紙からは、数学を学ぶ意義を理解し、前向きに問題に答えようとする生徒の様子が窺えます。また学力調査から、自分の考えを表現し、他の人と考えを共有して深めることで、思考力・判断力が確実に身に付いてきていると言えます。一方で、「データの活用」については授業での確実な理解を図るとともに、家庭学習を通して1・2年時の内容を定着できるよう意図的に働きかけていく必要があります。また、逆算して考える問題にも興味を持って取り組み、粘り強く考えられるようにしていくために、自ら数値設定をするなどして問題を自作する場面を授業でも取り入れていきます。できた喜びを味わわせることで、数学を楽しんで取り組もうとする姿勢を身に付けさせていきたいと考えています。

(3) 英語に関して

- 「読むこと」「聞くこと」「書くこと」に関する問題では、全国平均及び県平均を上回っています。「話すこと（発表・やりとり）」も全国平均を上回っています。
- 選択式・短答式・記述式の問題は全て、全国平均及び県平均を上回っています。
- 「話すこと」（発表）に関する問題の、「環境問題についてのプレゼンテーションを聞き、話し手の意見に対する自分の考えとその理由を伝える」では、全国平均を少し上回りましたが、正答率は低かったです。

質問紙からは、全国や県と比較し、英語への興味・関心が高い様子が伺えます。多くの生徒にとって英語は将来役立つ教科という認識のもと、前向きにスピーチやプレゼン活動に取り組んでいると言えます。また学力調査から、「読むこと」「聞くこと」「書くこと」「話すこと」を通して、知識・技能がよく身に付いていることがわかります。一方で、社会的な話題に関して聞いたことについて、即興的に自分の考えとその理由を話すことに課題が見られました。環境問題や人権、SDGsなど社会的な話題についてペアやグループで話し合う活動を取り入れたり、原稿なしで即興的に話す活動を段階的に取り入れたりして、さらに言語活動を充実させていきます。

(4) 生活習慣や学習環境等に関する意識調査

①全国平均及び県平均を上回っている主な事項（良好なもの）

- ・毎日、同じぐらいの時刻に寝ている生徒の割合
- ・先生が自分のよいところを認めてくれると思っている生徒の割合
- ・将来の夢や希望を持っている生徒の割合
- ・人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒の割合
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しいと思っている生徒の割合
- ・読書が好きな生徒の割合
- ・外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思っている生徒の割合
- ・これまでの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わる

よう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している生徒の割合

将来に向けて前向きな想いをもち、明るい気持ちで生活している生徒が多いことが分かります。互いの違いや多様性を認め合い、グローバルな視点で物事を考えられる生徒も多く見られます。本が好きな生徒の割合が全国・県平均を大きく上回ったのは、1年生の時から朝読書の継続による成果が大きいと考えます。今後も、生徒一人一人のよさに目を向けながら、体育大会や合唱コンクールなどの学校行事を通して、他者と主体的に関わりながら自分を成長させることのできる生徒の育成に努めていきます。

② 全国平均及び県平均を下回っている主な事項（良好でないもの）

- ・家で自分で計画を立てて勉強している生徒の割合
- ・土曜日や日曜日など学校が休みの日に勉強している生徒の割合
- ・今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合
- ・これまでの授業で、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる生徒の割合
- ・学習した内容を見直し、次の学習へつなげることができている生徒の割合

授業で人任せにせず自分で考えたり、家で自分から学習したりする割合が全国及び県を下回り、主体的な学習への取り組みに課題が見られます。また、自己を振り返りながらより良くなるように学習を調整していく力も不足しています。課題提示の仕方や学習形態の工夫によって学習意欲を喚起し、進路学習とも関連させながら学習へのモチベーションを高めるような働きかけをしていきます。また、授業時間の最後に振り返りを行ったり、テスト返却後に学校で復習の時間を確保したりして、学習に対する調整力が身に付けられるよう配慮していきたいと考えています。

4 保護者の皆様へのお願い

以上、3教科と生徒質問紙の結果から、良好な点と課題となる点をもとに、今後の方策について記しました。生徒たちの学力向上を一層推進していくためにも、各家庭におかれましては、以下の事柄を参考にして、生徒たちへの支援を具体的に展開していただきますようお願いいたします。

《学力をより一層伸ばすための家庭教育のポイント》

- (1) 自分から新しいことに挑戦したり、意欲的に学習に取り組んだりすることができるよう、お子さんの将来の夢や希望、目標等について話題にし、応援する気持ちを伝える。
- (2) 自尊感情や自己肯定感を高められるよう、日頃からお子さんの小さな頑張りや成長を認め励ましたり、失敗や不安な気持ちをそのまま受け止めたりする。
- (3) 自分で計画を立てて勉強したりその取組を振り返ったりするなど、主体的な学習習慣が確立できるよう、家庭で集中して学習に取り組むことができる環境を整える。
- (4) 規則正しい生活習慣が定着できるよう、テレビ・動画の視聴時間やゲーム・スマートフォンの使用方法等について話し合って約束を決め、実行できるように見守る。